

いろいろな道具

ここでは開拓の村にあるたくさんの道具の中から何点かを選び出してみなさんに紹介します。いまの生活の中では見ることはできないもの、形を変えて使われ続けているものなど、様々な道具にも目を向けてみましょう。



電話

この電話にはボタンもダイヤルもありません。代わりにハンドルがついています。このハンドルは発電機はつでんきになっていて回すことで電流を流し、交換手こうかんしゅを呼びだすしくみでした。(次第に受話器をとると自動的につながる形式のものへと変わります)

交換局とつながったら交換手こうかんしゅに何番(電話番号)の電話と話したいかを伝え、つないでもらっていました。



ブ ラ ウ

明治の初めにアメリカから
輸入された農機具の一つで、馬
にひかせて土をおこす道具で
す。

ブラウには荒れた土地をた
がやす新墾ブラウ、一度掘り返
したところをもう一度おこす

再墾ブラウなどがあり、土の質によって刃の形を変えたり、ひく馬の頭数によって一頭引き、二頭引きなどたくさんの種類かがあります。



たこ足

すいとちよくほんき 水稲直播機

北海道では広大な土地
を効率よく利用し、寒さの
害をさけるため、苗を移植
する田植えからの米作り
ではなく、種籾を直接水田
にまく方法が盛んに行わ
れました。直播きは労力が少

なくてすみ、収穫の時期が多少早まるために霜の害にあいにくいという利点がありました。

水稲直播機は、水田に均等な間隔でたくさんの種をまくための道具です。その形から「たこ足」、「ねこ足」といった名前がついたものや、発明した人の名前がつけられたものがあります。

北海道が米の一大生産地になった背景には広大な土地だけでなく、人々の努力と工夫がありました。



もっこ

左の絵はニシン場で使われていたもので、背中に背負って使います。船が漁から戻ると、背負ったもっこにニシンをつめてなんどもなんども運びました。「もっこ」という呼び名の、物を運ぶ道具は農作業に使うものなど、ほかにもあります。

子ども用や大人用などいろいろな大きさのものがああります。

はかり

物の重さをはかるのに使う道具で^{てんびん}天秤、^{だいばかり}台秤、^{きおばかり}棹秤、ばね秤などがあります。てこの原理やばねの性質などを利用して重さをはかります。

何をはかるかによって、形や重さのみかたが違います。



上皿棹秤